

会 議 名	令和５年度第５回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開 催 日 時	令和６年２月１６日（金）１８時３０分～２０時００分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 原田隆司委員 坂井文枝委員 中川法子委員		
欠 席 委 員	加藤治紀委員		
事 務 局 員	コミュニティ文化課文化推進係 津端 佐原 同 はけの森美術館学芸員 中村、河上、西尾 同 はけの森美術館学芸顧問 河合		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	０人
会 議 次 第	（１）事業報告等 （２）意見交換 （３）その他、次回日程調整等		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	資料１ 教育事業報告 資料２ 日程表		

【鉄矢会長】 皆さん、こんばんは。本日は、御多忙の中お集まりいただき誠にありがとうございます。

ただいまより、令和5年度第5回小金井市はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

それでは、本日の配付資料の確認を事務局のほうでお願いいたします。

【事務局】 事務局です。まず次第とホチキス留めの書類が1部ございます。こちらに資料の1と資料の2、横書きのものです。それとアンケート、運協の提言が1部になります。以上になります。

【鉄矢会長】 よろしいでしょうか。では、次第に従って、次第1の事業実施報告について、担当の学芸員さんからお願いしてよろしいでしょうか。

【西尾学芸員】 担当学芸員の西尾です。先月の1月28日をもって、令和4年・5年度市町村立活性化事業、第23回共同巡回展、福岡アジア美術館所蔵作品展の「うるおうアジア」展が無事終了しまして、今月上旬に作品を全て福岡アジア美術館に返却いたしました。私のほうで立ち会ったのですけれども、特に破損等の問題もなく無事に返却を終えることができました。

こちらの概要につきましては、去年度から何度かお話をしてきたかと思うのですが、一般財団法人地域創造の助成金によってなし得た共同巡回展という内容となっております。

実際の入館者数の蓋を開けてみたところ、一般のお客様が761人で、小中学生117人と、有料の合計は878人ということだったのですが、思いのほか各方面に配布した招待券を利用して入られた方が多かったのか、有料と無料の合計が1,358名という結果となりました。正直なところ、もう少し人出が多くてもよかったのかなと思うところもあるのですが、年末年始の極めて寒い中で善戦したかなというふうにも思っています。

関連企画としましては、前回の運営協議会の後、翌日になりますが、「絵本とあそぶアートのおうち」さんという方たちを講師に招きまして、子どもたちを対象とした鑑賞と制作のプログラムを開催しました。こちらは、ほぼほぼ満員御礼となりまして、ただ絵をかくだけではなくて、実際にリキシャですとか、「中国人家族のいる雪景色」といった風景画を子供たちが鑑賞し鑑賞体験を通して、実際に最終的に手も動かして、あと読み聞かせですね。そういった耳で聞く、目で見ると、そして自分の手を動かすという、3つの方向性から子供たちが楽しんでイベントに参加するというような形となりました。

また、その翌日1月14日には、東京外国語大学の准教授の橋本雄一先生をお招きしま

した。この展覧会にちなんだスライドトークを行っていただきました。こちらでは、例えば、1階の展示室に中国人女性の「纏足」といわれる文化ですね。写真を紹介していたり、あとは中国、中国の民国期の商業ポスターなんかも展示していたのですが、そういった女性の足という表象に着目した非常に興味深いレクチャーを行っていただきまして、通常こういったレクチャー、私がこちらに赴任してからは、あまり人が集まるイメージがなかったのですが、ほぼ満員といったような形で、この多目的講義室が人でいっぱいになって、皆さん興味深く聞いていただけたのではないかと考えております。

また、1月、当館の学芸員によるギャラリートークも行いまして、こちら日付が1月14日と間違っているのですが、こちらでは作品数が多かったので数点の作品を絞りまして、私のほうからギャラリートークを行わせていただきました。

こちらの展覧会については、今お配りしたホチキス留めの資料の一番最後の2ページ分がこの展覧会に関するアンケート結果となっております。アンケート結果自体が198件とかなり多く集まったので、今後、当館の動きを考える上でも貴重な資料になったのではないかと考えております。

アンケート結果を見るとやはりほかの展覧会の、今回、今年度の、去年度の「海と画家との説話性」とそれから「笹川治子」展とこの「うるおうアジア」展、3つのアンケートを今回資料として配布しているのですが、やはりこの中で、この「うるおうアジア」展のアンケートの特異性というものが少し見えてくるかなと考えておりました。

こちら「笹川治子」展にも当てはまることではあるのですが、少し若めの年齢層の方がいつもよりは多かったのかなという印象を受けたのと、あとアンケートを書いてくださった方の中で、いつもよりもやはり初めて美術館に来たというふうに回答いただいた方の数が少し多かったように見受けられました。こちら招待券を送ってそれで、今までいつもだったら来ないような方々が足を運んでくださったというのは、成果かなとも考えております。

一方で、最後のほうに、御意見、御要望をまとめたのですが、私なりに肯定的な意見と否定的な意見、あと賛否両論というふうに分類をさせていただきました。

肯定的な意見としては、あまりふだん見られないアジアのアートを見ることができたと、アジアのというところちょっと語弊があるかもしれないのですが、あまりふだん見ることのできない作品を当館で見ることができたということに対して、新鮮な喜びを覚えたというような意見が多かったのですが、否定的な意見としては、去年度の運営協議会

の際にも御指摘を受けましたが、やはり章立ての文章がない、解説文がやはり少ないという
ことに対して、もう少し解説が欲しかったというような声があったことと、それから、
テーマ自体が深掘りされていないというような御意見もいただきました。

こちらについて、今回の事務局さんである上田市立美術館さんのアンケート結果も少し
見せていただいたのですけれども、やはりそちらでも、観客をちょっともう少し、観客と
いうのは何かよく見ているのだと、もうちょっとちゃんと企画してほしいというような意
見もあったようでして、そういった意味で、やはりその企画自体の弱さというものを当館
のお客様も見えていて気づかれるのだなということを改めて感じました。

ただ、とはいえ今回の企画については、4つの美術館で1つの企画を立てていくという
ところが非常に困難だったということもありまして、じゃあどうすればよかったのですか
と言われると、私もとても困ってしまうところではあるのですが、今回のこうした御意見
は真摯に受け止めて、今後は、はけの森美術館らしいといいますか、学芸員がしっかりテ
ーマを持った展覧会を立てていくということは、非常に改めて重要なことで貴重なこと
であるなということは感じました。

すみません。長くなりましたが、「うるおうアジア」展に関するお知らせと所感は、以
上になります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。今後の展覧会も説明を…。

【中村学芸員】 ではこちらのほう、今後の展覧会と普及事業等に関しましては、学芸
員中村から報告させていただきます。所蔵作品展、次回、3月24日から所蔵作品展が予
定されておりますけれども、こちらは既に前回のときに一部御報告させていただきました
とおり、「中村研一の往還」と題しまして行う予定でございます。

こちらの記載も前回のものと一部重複している状態なのですが、細かいところは
割愛しまして、どこが更新されたかというところになりますと、まず関連企画、ギャラリ
ーコンサートですけれども、こちらはギャラリーコンサートの演目というか、ハーブ&パ
イオリンのコンサートに決定いたしました。こちらが、3月23日、会期開始の前日に行
われる予定でして、チケット購入制で1,000円、定員が40名ということで予定され
ております。まだちょっとこちらのほうは、3月の1日から申込みを開始するという予定
でおります。

イベント、ワークショップのほうも、こちら前回はこちらちょっと細かいところ、日程ですと
かそれからタイトルなどが未定でしたけれども、こちらが決定いたしまして、3月の28

日本曜日に、「とびらのむこうはどんなせかい？」というふうなタイトルで行うということで決定いたしました。28日木曜日、平日なのですがけれども、未就学児から小学生までを対象としまして、小学生のほうも春休みに入っている時期であるということで、可能であれば来てくれるだろうということを見込んでおります。

講師の「こごうちぶんこ」さんとは、来週打合せをしまして、細かい、このワークショップに向けて、どういうことをやっていくかということのをちょっと詰める予定でございます。

前回のときに、ポスターとチラシと、ちょっと人気投票をさせていただいたのですがけれども、今ちょっとこれが昨日出てきた簡易校正です。こんな感じで、こちらがポスターのほうの校正で、こちらがチラシのほうの校正となっております。最終的にポスターのほうとチラシのほうとで、下の作品がちょっと違うというふうになりまして、今、一旦ちょっと印刷してもらったもので、手書きでいろいろ色味の調整のことが入っておりますけれども、こんな形で予定しております。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

【西尾学芸員】 すみません、1点だけ補足をさせていただくと、今、お手元にあるこの図録、小さいパンフレットなのですがけれども、これは両面から読めるようになっておりまして、片面、中村研一と中国というほうは、今回の「うるおうアジア」展の2階で展示しておりました中村研一と中国が、中国、今、主に戦時期に赴いて描いた作品を展示したことにちなんだものでして、裏側からは、中村研一とシンガポールというふうに題した、中村研一とシンガポールとの関係についての文章と図版が掲載されたものとなっております、こちらについては、「中村研一の往還」展の副読本的な感じですかね。

【中村学芸員】 そうですね。完全にこちらの次の展示とリンクしているというよりは、大まかに展示の一部と内容として関わるような形になっていまして、先ほどのこのポスターとチラシの上のほうに出ていた「明治神宮」という絵について言及しているところがあります。

なので、作品としましては、そこに掲載している作品は、次の所蔵作品展で展示する予定なのですがけれども、次の展示は既に御報告させていただいたとおり、「往還」というテーマにしておりまして、シンガポールの内容だけに限ったことではないので、ちょっとそこの一部をより深く読んでいけるという内容にする予定で、アジア展から引き続き、展示室の中で見ていただいたりとか、それから受付前で購入できるような形で、ちょっと出し

ておく予定です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

【河合学芸顧問】 将来的にこういうのがこういうのが重なっていったら、はけ美叢書みたいなのができるといいですね。

【原田委員】 それは、観覧者が購入できるのですか。

【中村学芸員】 はい、そうです。

【原田委員】 幾らですか。

【西尾学芸員】 800円だったと思います。

【原田委員】 これ、色がポスターと同じになっていますね。美術館の字の色、ピンクとブルー。

【中村学芸員】 そうですね。そこは、ちょっと印刷業会社さんのほうでデザインしてもらったのですが、何かそういう形で偶然に一致したので、偶然……。

【山村委員】 いいですか。

【鉄矢会長】 どうぞ。

【山村委員】 これについて、ちょっと今日早く来たのでしっかり読んで、その上で思ったのですが、叢書になればいいなという河合顧問の話、ほんとうに同感で、最初から小金井市立はけの森美術館所蔵品研究論集とかの1とか、もうやってしまってもいいのではないのと。

【河合学芸顧問】 ほかのもの、図録は分かるじゃないですか、展覧会の内容で。これ、身内で知っているから、この間の引き継ぎであって、今度のをやるんだからと分かるけれども、やっぱり今言ったように何か位置づけをしていったほうが……。だからといって来年つくれるかどうかは別としても、ほんとう叢書みたいなものでも。

【山村委員】 毎年つくれば紀要になるのだけれども、それができないということであれば、何か論集とかにして不定期でもいいから、一応「1」にして続きますということで、一般の人が分かるようにしてほしいのです。

【河合学芸顧問】 そうなんです。

【山村委員】 じゃないと、何じゃこりやということになってしまう。

【河合学芸顧問】 いや、おっしゃるとおりで、途中まで知っていたのにもかかわらず、奥付どちらからとったかなというだけで。

【山村委員】 だから、開けて、右開き、左開き、重ねてあるのは面白いけれども、や

っぱりこれ挨拶とか内容紹介、一般の人にイントロダクションするための文章が必要だし、中村研一と中国とシンガポールの関係を示すの簡単な年表も欲しいし、なおかつ所蔵品の管理番号もちゃんと記して、CとかS、チャイナのCとかシンガポールのSでやるのは分かるけれども、それよりは何というか、所蔵品番号（ないしは管理番号）が分かるようにリストを付けて、一般の人にフレンドリーに、こういう非常に特色のある、1942年から45年までシンガポールは日本の植民地だったということも含めて、中学生とか高校生が分かるように、何かイントロダクションをつけて、見やすい年表も確認できて、そういうコレクションがここにあるんだということ、非常に珍しいものなんだということをもう少しアピールしたほうがいいと思います。

【西尾学芸員】 この冊子をつくること自体が初めにあまり予定されていなくて。

【西尾学芸員】 すごく短い時間でつくらざるを得なかったのと、それと並行して福岡アジア美術館の作品展の開催準備をしなければいけなかったということと、ちょっと時間は足りなかったかなと思います。

【山村委員】 事情はほんとうによく分かるのだけれども、それはほんとうに、一般の人からとってみると、さっきのアンケートにもあったとおり、「これ何？」という話になってしまうのですよね。非常にもったいない気がする。せっかくのこの内容的には非常に深いものがあって、改めて自分なんか見ていて、ここの記念館はすごく珍しいものを持っているのだと、歴史的に非常に貴重なものを持っているのだというふうに思いましたけれども、でもそれが一般の人に分からないと、もったいないなという感じもします。

【河合学芸顧問】 あと、さっき所蔵品番号のことをおっしゃいましたが、実は、オフィシャルではないのですけれども、この前の笹川さんのときの展覧会で、研一さん、たくさん出ていますよね。めったに出ないのも出たのですけれども、結局、図版のあるものとドローイングで2階に置いてあるものの、笹川さんがセレクトしてくれたものの作品のデータしか出ていないので、後になると、ほかの人がやるときにわからなくなる。同じタイトルのものは結構多いので、わからなくなるよというのは言いました。その辺は一つ、次のときに重ねていってほしいと思うのですけれども。

【山村委員】 所蔵品番号は絶対入れるべきだし、なおかつ、それがいつ入ったのか。寄贈だと思うのですけれども、寄贈の年、寄贈年とか何かそういうベーシックな基礎的なデータが載っていないと何かもったいないですよ。

【河合学芸顧問】　　ここはまだ十何年、財団からで、ここになってからで間違いだろうというものを直しつつ、そういうのを反映してきているのですけれども、ほんとうの意味での贈品に対しての目録というかデータというのは、完璧なもの、外に対して出せるものというのではないのですよね。まだ今やっている最中ですよ。なので、また全てをこう期待するには申し訳ないのですけれども、少しずつ前進しているんじゃないかなという気はしています。やはり深くなってきていますよね。中村研一について。

【山村委員】　　内容も非常に素晴らしいと思います。

【原田委員】　　こういう中国、シンガポールというテーマで展覧会をやったことはこれまでないですよ。

【中村学芸員】　　ないですね。

【原田委員】　　ないですね。だから、そのまま展覧会になるんじゃないかと思って拝見していたんですけれども。

【中村学芸員】　　先ほどちょっと西尾のほうからも、時間がなかったというのがあったのですけれども、実はこの冊子自体が、「うるおうアジア」展のときについてお金の額で、つくれる最大限のものということで考えると、このページ数でこのサイズのものが最大だろうというところで、アジア展の中でアジアに関わるようなテーマというのを中村研一作品と考えていけるということかというと、ちょっとそこに私が便乗した形になっていまして、せっかくだから次の展示にまたがって、小冊子として扱えるようなものをつくりたいということで、時間が限られている中で、やれるところまでやってみようということをつくったものなんです。

ということかというと、やはり確かに、一般の人に何で出たのかというところのそういう内々の事情というところかというと、分かりづらいというのはあると思いますので、そこに関しては、次の展示までのところで、できれば中に折り込みのような形で、簡単に年表ですとか補足情報みたいなものを追加できるというふうに思います。

逆にこれは、そういった形でつくったものなので、具体的に、特定の展示の小冊子として出ているわけではありませんので、逆に次の所蔵作品展が終わってからも、中村研一に関わる情報提供として、次回以降の展示でも活用していければなというふうに思いますので、随時そのあたりのアップデートを図って折り込みしたいと思います。

【鉄矢会長】　　多分つくったから、いろいろ皆さんからいいアドバイスが出ているのだと思うので、つくったことは間違いじゃないと思っています。

私からもなんですけれども、奥付をちょっと整理したほうがいいのかなと思って、企画制作はけの森美術館ではないのかなと思うんです。この冊子のものが。だけれども、これは今は株式会社オフィスエンズさんがつくった、制作したものであるとしか書いてないの、はけの森美術館というのが一切、発行も書いていないです。

【山村委員】 これ、発行はどこなの？

【西尾学芸員】 手元に今持っていないくて、お借りして。

【河合学芸顧問】 小金井市でいいのでしょうか、発行。

【鉄矢会長】 発行も、このままだと。でも、表紙には……。

【河合学芸顧問】 これで、ないものね。

【原田委員】 これの発行者ですよ。

【鉄矢会長】 これ、奥付が命なんです。

【西尾学芸員】 そうですね。確かに。失礼しました。

【山村委員】 文献として出そうと思ったら、発行が書けなくなってしまう。

【河合学芸顧問】 駄目です。思ったのは、国会図書館、これどうするのかなと思って、分類を含めて。今頃になって言って申し訳ないのだけれども、うち持って帰って見たら。

【中村学芸員】 これは、そうしたら、次、シール対応してください。

【河合学芸顧問】 ほんとうは。

【事務局】 シールでも奥付は許されますか。

【河合学芸顧問】 実際には、奥付ミスというのはアウトというふうに僕らは最初に学んだのです。日付とあれを絶対間違えるなど。なので、それでシールを貼るといのはないのですけれども、よくあります。

【山村委員】 よくあります。私もよくやりました。

【鉄矢会長】 発行はけの森美術館という、判こだけでも。

【河合学芸顧問】 予算的には、発行はけの森美術館で間違いはないのですよね。

【西尾学芸員】 はい、そうです。

【鉄矢会長】 制作じゃなくて、これ印刷と書いてあるけれども、オフィスエンズさんは……。

【西尾学芸員】 発行、コロン、小金井市立はけの森美術館のシールを作って売る都度貼って。

【西尾学芸員】 最初は、年表も入れようとか地図も入れようみたいな話をしていたと

きもあったのですけれども追いつかなかったというのがあって、実際に当館では予算が少ないということもありますが、今までも、英語版のこれぐらいのサイズのリーフレット、パンフレットというのは何度もつくってきているので並べて、所蔵作品展の際にも手に取っていただけたらなと思っております。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

では、次第の2、運営協議会の提言について、今、資料を基に事務局からお願いします。

【事務局】 ありがとうございます。こちらの資料なんですけれども、前回の委員会のあとに山村先生からいただいたものをベースにさせていただき、作成しました。あと、右に前回いただいた委員さんの御意見を書かせていただいて、あと事務局で追加した部分は、（事務局）という形でコメントのほうを追加させていただいております。今、ちょっと一読いただいて、修正したうえで、提言として完成できたらなと思っております。

進行のほう、会長にお任せいたします。

【鉄矢会長】 では、ちょっと一読する時間ということで、ほんのちょっとだけですけども……。

（資料一読）

【鉄矢会長】 よろしいでしょうか。何か御意見ございますでしょうか。

【原田委員】 原田です。現状を踏まえて、市の文化的価値、価値を守り、活かすためにはどうしたらいいかというテーマの提言、それはくっきりしたと思うんです。守るためには何が必要か、活かすためにはどうするか。その上で、細かいところですけども、2ページ目の提言のところ「いかす」という文字が2種類入っているんですが、これは「活」のほうの「活かす」ですね。

【事務局】 ごめんなさい。「活」です。

【原田委員】 文化的価値を守り、「活」のほうの「活かす」ために。その下の4行が、守ると活かすがちょっと分かりにくくなっていて、2行目から文化的価値はそこにある作品、文化財、人的資源、そのものを守ることによって、それを活かし、守るべき人を支えることによって、ここは、守れるじゃなくて活かされていくではないかなと、そのほうが、その後の提言につながるのかなというふうに感じましたが、いかがでしょうか。

【事務局】 わかりました。言葉について整理したいと思います。

【鉄矢会長】 整理をお願いします。

【事務局】 はい、表記ゆれは整理させていただきます。

【原田委員】 もう一つは。

【事務局】 先ほど御指摘のところは、守られ、守られが連続してしまっていて、確かにちょっとおかしくなっている。「活かされていく」。

【原田委員】 4行目の「守られ」は、「活かされていく」のほうが趣旨に合いますよね。

【事務局】 そのほうが、文章が生きますね。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。ほかに。

鉄矢です。3ページ目というんですか、高木剪定のところなのですけども、緑地の剪定管理が必要なのところなのですが、植生調査の結果によると、高木化して、それから、密集度は極めて高くということを書いてあって、防災上の問題点が指摘されているということで、高木剪定はしてきたが、引き続き善処していただきたいというのは、密集度、その防災上の問題点がちょっと具体的にないので、密集度が高過ぎるというのが問題点なのか、高木度が問題点なのかがちょっと……。密集度だとすると、高木剪定だけでは足りないので、少し減らしてくださいという話ですよ。

【事務局】 密集しているということもあります。

【鉄矢会長】 密集。

【事務局】 密集も防災上どちらも両方、たしかにどちらもそうですね。

【鉄矢会長】 防災上は、密集は何をもって……。崩れてしまうのですか。

【事務局】 倒れてしまったり、ぶつかり合っていたりとかというのもあるので。

【鉄矢会長】 適切に伸びないということですね。

【事務局】 はい。

【鉄矢会長】 それは、防災上なのかどうかよく分からないんですけども、成長上よくないのは分かるのですが、防災上だと高木のほうが悪いのだろうと思うのです。ちょっとこのところで、引き続き善処をしていただきたいという中で、高木剪定以外のこともやってほしいとしっかり書いたほうがいいかと思いました。

【事務局】 分かりました。適切に管理をするみたいなイメージで。

【鉄矢会長】 間引くが必要なのでしょうね、ほんとうは。

【原田委員】 一般に剪定をするときに間引きますよね。どうでしょうか。

【鉄矢会長】 というか、これ多分密集してしまっているんで、結構高木をほんとうは倒すということが必要だと思うんです。

【原田委員】 伐採が必要だということですか。

【鉄矢会長】 伐採が必要だということで。これ、多分読んだ人は、高木剪定やればいいんだと思ってしまう。伐採しろって一番大変でしょう。周りの市民からノーと言われるし。

すみません。鉄矢の鉄の字は、飛び出ない鉄なんですけれども、これもそうなので、これも間違えているんですけれども、あまり瑣末なと言わないとこうなってしまうて、金を失わないほうなので、金の矢のほうです。瑣末なことで申し訳ありません。そんなこと言わなくてもいいことかもしれないですけれども。

【事務局】 気付かずに申し訳ございません。ご指摘ありがとうございます。

【原田委員】 変換で出るんですか。

【鉄矢会長】 出るんです。関西ではそうですね。近鉄とかも、出るのと出ないのと。

【事務局】 そうなんですか。

【鉄矢会長】 日本製鉄も、国鉄もそうです。

【事務局】 そうなんですか。

【鉄矢会長】 験担ぎできていますので。

では、あと、もし今後も気がついたら……。

【男性C】 いいですか。すみません、目次というか、表題のところにあるとおり、4年間の評価と現状、下のほうに4年間の評価と現状についてとありますけれども、下のほうの「ついて」はいらない、取ってもいいと思うのですけれども。どうですか。

【事務局】 分かりました。

【】 そのほうがすっきりしていいと思うのです。それで、今回、過去の提言、過去のこれ、4年ごとに出しているのです、過去3回分を見て、2012年からずっと見ていたんですけれども、ちょっと似たりよったりのところが多いんです。特に提言内容、ほとんど変わってないというか、それで改めて思ったのですが、一番最初の頃の薩摩顧問の話も久しぶりに読んだんですけれども、成果を具体的に書いてくださいと、結構おっしゃっているんですよね。

今、私が短くしたのかもしれないけれども、成果のところ、例えば、事業内容について、企画展覧会、所蔵作品展、これでいいんですけれども、4年間の中の主要な企画展をここで、具体的に列挙してしまってもいいかなと。それは成果ですから、まさに。

それから、教育普及事業についての鑑賞教室は毎年開催しているということも明記して、

それで、特色ある具体的なワークショップの例を三つ、四つ挙げてもいいかなというふう
に思います。これはだから、この時期でなければやらなかったワークショップとか、ある
いは、これはすごく将来性があるなと思ったワークショップについては、ここに成果とし
て入れていいと思います。

それから、次の一番重要なのは、3番目の作品の収集調査研究等について、これは、こ
の4年間で寄贈されたものは結構ありますよね。それを書いたほうがいいと思うんです。
それは作品の寄贈について年度も含めてちゃんと書いておけば、この提言、評価のすごく
具体性が出て、この年でなければ入らなかった、できなかったという、そういう具体性が
出ると思いますけれども、ちょっと今すぐ私は思い浮かばないので、さっきのこの冊子の
ほう、これもたしか寄贈書ですよ。

【中村学芸員】 はい、それも寄贈ですね。

【山村委員】 だから、そういう成果が具体的にあるわけで、だから、それは最初から
ここの美術館の目標であった中村研一の発掘が、ここは毎年毎年頑張ることによって認知
されて、そういう寄贈の申出があったりだとか、実際に学芸員が頑張って発掘したりとか
したことが非常にここに目立つ形で出るわけですから、これはぜひ書いてほしいんです。

先ほど言った寄贈なり何なりで収集しましたという、そのプロヴェナンス（芸術作品や
考古学的な物品などの出自、伝来、由来を指す言葉）というんですか、要するに来歴だと
か、ここの活動だとかというのが、そこで明らかになるような一つの機会として、これは
4年に1回ですから活用したほうがいいと思う。あわせて、こういうものをぜひ続けてほ
しいし、そういう中村研一の研究センターなんだというイメージを確実につくっていつて
ほしいと思います。それは、お願いしていいですよ。

【西尾学芸員】 はい、大丈夫です。

【鉄矢会長】 具体的な。

【原田委員】 読むときにこの本文の下に箇条書の形で出ていたほうが読みやすいかな
と思った、そういうのは形としては。

【山村委員】 そうですね。中黒で箇条書きでもいいし。

【鉄矢会長】 以下のような成果があったみたい。

【山村委員】 文章でも悪くないのだけれども。

【鉄矢会長】 4年間の評価と現状。これがずっと気になっているのですが、1
番のというふうにやると、1番、提言と、上と両方番号がかぶって、1の1、1の2とか、

2の1、2の2とやらないのですか。前はやっていなかったでしたか。

【山村委員】 ギリシャ数字で評価と現状、ギリシャ数字の1で、提言をギリシャ数字の2にして……。

【鉄矢会長】 何か少し分かりやすくなるなと思いました。

まだ追加がありましたら、許す限り早いうち、アズスーンアズポシブルというやつですね。よろしくお願いします。

では、次第の3番目のその他、よろしいでしょうか。その他、事務局から何かありますか。

【事務局】 今年度の運営協議会、本日で第5回ということで、今年度の運営協議会、以上で終了となります。ありがとうございました。

今回、2年ずつで市民公募のお二人が2年ずつで計4年ということで、今回、坂井さんが今回で終了になります。

【鉄矢会長】 ご卒業です。

【事務局】 はい、御卒業になります。4年間ありがとうございました。

【坂井委員】 こちらこそありがとうございました。

【鉄矢会長】 これからも卒業生としてぜひ温かく見守ってください。厳しい意見も、アンケートにびしびし書いてもらって。

【河合学芸顧問】 アンケートに、お二人じゃないのですけれども、以前の委員をやっていたという方がいましたよね。匿名だったけれどもありました。だから、かなり細かいの。だから、この現状をほぼ御存じで、でも書くよという立場でしたね。ありましたよね。読んだよ、僕。

【事務局】 ありました。以前いただきました。

【鉄矢会長】 では、ほかにその他ございますでしょうか。

【西尾学芸員】 すみません、学芸員の西尾です。私、今年度をもって、はけの森美術館を退職しまして、別の美術館で学芸員をまた続けることとなりました。ここに来て3年間ですが、ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。

【鉄矢会長】 お疲れさまでした。3年か、早いですね。この会のあとで、次のお仕事についていろいろお聞きしましょう。以上で、はけの森美術館運営協議会を終了いたします。お疲れさまでした。

【事務局】 ありがとうございました。

— 了 —